

2007/11/22

平成19年度 学術ポータル担当者研修 研修後レポート

聖路加看護大学図書館 松本直子(受講者番号:10-2)

聖路加看護大学図書館 佐藤晋巨(受講者番号:10-1)

(1) 発表資料の状況設定

学内の研究者を対象に聖路加看護大学研究成果リポジトリの現状と目標、目標達成に向けての3ステップの計画に関する説明を行い、実現に向けての協力を要請する。

(2) 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改定部分

【発表内容抄録】

電子図書館「Quilt」が新しいシステムに変わりました。新しいシステムでは、聖路加看護大学で生産される学術成果を永続的に総覧できるサイトを目指します。新しいシステムを導入すると、研究成果をめぐる問題点を解決することができます。システム実現までには4ステップあり、研究者の皆様のご協力が欠かせません。

【研修発表との改定部分】

ステップ3の内容及び、リポジトリ図の入れ替えを行った。

(3) リハプレゼンの概要

【日時】2007年10月4日 13時～ 【場所】図書館 スタディールーム

【発表対象】図書館長、学部長 【発表者】松本、佐藤

【概要】研修で作成した発表資料と共に、他大学での導入事例などをインターネットで見ながら、機関リポジトリを大学として導入することの意義について説明を行った。

(4) リハプレゼンへの反響

インターネット接続環境で、国内外の具体的な事例を見ながら説明を行ったことで、「機関リポジトリ」が何かについて理解を得られた。

学内の協力を得てコンテンツを収集するためには、他のシステムとの連携が必要であるとの助言が得られた。本学のリポジトリは、研究業績データベースの機能を持たせるという方針が決定された。さらに、看護専門職、市民も含めた利用者に対し、研究成果を広く公開、活用促進のために、将来的に『看護ネット』（21世紀COEプログラムの成果を公開するサイト）を含め、全学的な取り組みへと展開する必要があるとの示唆があった。

(5) その他

9月図書委員会、11月COE運営委員会などで発表